

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	上野 俊一
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278	40,483	39,692	38,905	36,712
見込値										
						実績値				
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
生涯にわたって自ら学び、学びあっている。		①日頃学習活動をしている市民の割合	%		目標値	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1
						実績値	22.2	24.6	29.7	21.2
		②公民館の年間利用者数	人	目標値	89,000	90,000	91,000	92,000	93,000	
					実績値	78,052	75,205	63,261	31,382	42,670
		③図書館・室の年間利用者数	人	目標値	28,100	28,600	29,100	29,600	30,100	
					実績値	29,127	33,170	27,862	13,226	11,533
				目標値						
			実績値							
			目標値							
			実績値							
	成果指標設定の考え方	生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあう成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」をアンケートで調査。また、各社会教育施設の利用者数の把握。								
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、令和2年度は21.2%と前年度比8.5ポイントと大幅に減少したが、令和3年度は前年度比4.5ポイント増加となった。公民館の年間利用者数については、これまで穏やかな減少傾向であったが、令和2年度は31,382人と半減し、令和3年度は42,670人まで増加した。増加した要因としてはコロナ禍が長く続く中で、これまでと違ったかたちの新しい生活様式に合わせた学習活動をはじめているのではないかと推測される。図書館・室の年間利用者数については、上昇傾向にあったが、令和元年度より減少に転じ、令和2年度は前年度からほぼ半減し13,226人、令和3年度も11,533人と減少している。減少の要因としては電子図書館の利用が増えたことが考えられる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値25.1%に対して0.6ポイント上回った。要因としては長く続くコロナ禍に合わせた学習活動を始めているのではないかと推測する。 ②公民館の年間利用者数については、93,000人の目標値に対し、42,670人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、30,100人の目標値に対し、11,533人と大幅に下回った。 目標値を大幅に下回った要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大による施設の休館、利用の制限などが大きく影響している。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・電子図書館システム運用事業・・・コロナ禍の中で様々な行動が制限される中、24時間提供可能な非来館型図書館として、一昨年度に整備、運用を開始し、現在も高い利用率を維持している。 ・桜川市市民文化祭・・・実行委員会を中心とした市民全ての方が参加資格を有し、日頃の生涯学習活動・文化振興活動の成果を発表する場として、コロナ禍においても、感染対策を徹底した上で、多くの催事を開催した。 ・高齢者学級事業・・・これまで真壁地区中心で開催していたが、岩瀬・大和地区でも積極的に参加者を募り、感染対策を徹底した上で5会場で13回実施し、延べ156人と昨年(73人)の倍以上の高齢者が参加した。	桜川市市民文化祭や公民館各種講座、また文化協会などの各種団体等についても、参加者を広く公募しているが、参加者の高齢化、固定化が進んでいる。今後、若年層の参加意欲が向上するような内容を取り入れ、若い世代の方にも興味関心のある事業を推進するなどの工夫、改善が必要である。 ブックスタート事業、公民館読み聞かせ事業については、少子化に伴い大切な事業であり、令和6年に開館予定の図書館を含めた複合施設においても重要な事業となることから、引き続き読み聞かせボランティアの養成などと共に力をいれていく。 各施設の管理運営に関しては、桜川市公共施設個別施設計画を基に引き続き対応を進めていく。 一昨年度、コロナ対策として整備した、撮影機材、配信機材等を活用し、映像配信や自宅などからリモート参加できる講座、催事等の充実をさらに図っていく。